

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 7月 13日

【評価実施概要】

| | |
|-------|---------------------------------------------|
| 事業所番号 | 3671000010 |
| 法人名 | 社会福祉法人 勝寿会 |
| 事業所名 | グループホーム あゆの里 |
| 所在地 | 徳島県勝浦郡勝浦町大字棚野字竹国13番地の1 (電話) 0885-42-3700 |
| 評価機関名 | 社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 |
| 訪問調査日 | 平成19年 6月 29日 |

【情報提供票より】(平成19年 6月 6日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|--------------|--------|---------------------------|
| 開設年月日 | 平成12年 10月 1日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 8 人 | 常勤 | 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 6.75 人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|--------------|
| 建物構造 | 鉄筋鉄骨 造り |
| | 2 階建ての 2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|----------------------|----------------|-------|
| 家賃(平均月額) | 1日 850円(1ヶ月 25,500円) | その他の経費(月額) | 0 円 |
| 敷 金 | 有(円) | (無) | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 780 円 | | |

(4) 利用者の概要(6月 6日現在)

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 | 3 名 | 女性 | 6 名 |
| 要介護1 | 0 名 | 要介護2 | 1 名 | | |
| 要介護3 | 4 名 | 要介護4 | 3 名 | | |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 81 歳 | 最低 | 67 歳 | 最高 | 89 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-------------|
| 協力医療機関名 | 勝浦病院 ・ 福井歯科 |
|---------|-------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「あゆの里」の利用者はほとんど地元出身であり、地域の人達と顔馴染みである。利用者の方達は地域の一員として行事、活動には積極的に参加されており、併設のデイサービスの利用者とも交流がなされている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点項目① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価において指摘された注意の必要な物品の保管・管理の項目は、全て改善されており、危険を防ぐ取り組みがなされていた。 要改善を受け、ホーム側は台所のリフォームを行い、今までと異なり、利用者が広い台所で生き生きとした表情で後片付けをしている等、ホーム側が一丸となって改善に取り組んだ様子が見られた。</p> |
| | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員が、評価の意義をよく理解しており、職員全員で自己評価に取り組んでいた。</p> |
| 重点項目② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>現在、運営会議は開催されていない。7月には予定されており運営規程やメンバー構成(役職)表等が作成されていた。今後の取り組みに期待したい。</p> |
| 重点項目③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>地元出身の利用者が多く、家族は頻繁にホームを訪問されている。利用者のホームでの様子を伝え、家族からも意見を聞く等、情報交換はされている。苦情相談にはサービス提供者を配置し、迅速に適切な対応がとれるよう体制を作られている。</p> |
| 重点項目④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者は地域の行事等に積極的に参加されている。町内の小・中・高等学校との連携も密に取りながら学校に出向いたり、ホームに訪問していただいている。また、地域の民生委員の協力を得ながら、地域のボランティア活動に積極的に参加をしている。</p> |

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 事業所独自の理念が作成されており、ホームの中でその人らしい生活ができるような環境を整え、残存機能を活かしながら自由にゆっくりと安らぎのある暮らしを支援している。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は誰にでもわかりやすい場所に掲示されている。勉強会等で理念に沿った支援について管理者、職員全員が共有し日々の実践に努めている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 利用者のほとんどが地元出身者であり、地域の人達との関係は馴染みが深く地域の一員として地域の行事、活動に積極的に参加されている。併設のデイサービス利用者との親交も行われている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 事業所は評価の意義とその活用については良く理解をしている。先の外部評価において、要改善と指摘された項目についてはホーム全体で討議をし、改善へと取り組んでいる。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 第1回運営推進会議は7月に予定されており、運営規程やメンバー構成(役職)表等が作成されていた。 | ○ | 会議開催に向けて具体的なメンバー選出や話し合いの重点目標を検討され、推進会議が意義のあるものとなり、日常サービスのさらなる質の向上に活かされることを期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 母体法人が受託している地域包括支援センターが中心となり、市町村担当者との連携は密に取られている。 | ○ | 事業者は利用者の生活の安全、サービスの質の向上に向けて、地域包括支援センターと連携を図りながら、市町村の担当者(職員)と直接的に意見を交えるなど、積極的な取り組みを期待したい。 |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 地元出身の利用者が多いので、家族は頻繁にホームを訪問されている。「あゆの里」だよりで家族は利用者の様子を知る事ができ、また個々に合わせた報告をはじめ金銭についても報告がなされている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情については運営規程第16条に明記されている。受付窓口、相談職員を明確にし、文章と口答で説明をし、苦情が寄せられた場合は速やかに対応策を検討して回答し、サービスの改善に努めている。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 利用者と職員との馴染みの関係を築く為にも異動時には利用者のダメージを最小限に抑えられるよう周知を図り、スムーズにサービスが継続できるように全職員で取り組んでいる。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新規職員には新人研修による法人の考え、規程を学んでもらっている。施設研修では業務に必要な知識、技術は全職員による定期的な勉強会を開催し、職員の研修の確保、向上に向けた育成がなされている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修を通して、同業者との情報交換や交流により、ネットワークを作り、事業者同士交流しながら質の向上に取り組んでいる。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用者がグループホームへの入所以前に、同法人が運営しているデイサービスの利用時を利用してグループホームで体験をしていただき、職員や利用者との馴染みの関係を築き、安心、納得の上、入所していただけるよう工夫がなされている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者は職員と一緒に買い物、献立、食事の準備から後片付けまで一連の作業を楽しく和やかな雰囲気で行われている。また、洗濯干しも「楽しいおしゃべり時間」となり共に支え合う関係を築いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日頃から利用者の希望、意見に耳を傾け、本人の真意を吸い上げ対応しているが、困難な場合には利用者の生活を把握した上で全職員が「本人にとってはどうか」という視点で話が行われている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 利用者がその人らしく暮らし続ける為に必要な支援を盛り込んだ個別介護計画が作成されている。本人家族の意見も反映され、本人主体の尊重された介護計画となっている。家族の承認サインは得ている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 計画書には実施期間が明示されているが見直し以前に利用者の状態変化に応じ、計画の見直しを行う等柔軟な対応ができ、新たな計画作成をしている。家族には了解を得ている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 利用者の生活状況や対応については家族の面会時に説明がなされている。利用者の状況、状態に変化が見られる折は、家族に連絡をして臨機に柔軟な支援をしている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族の希望に沿って行っている。隣接の協力医療機関により週3回内科医の回診と月1回の診察が実施されている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 現在まで終末期のケアの利用はなかったが併設施設の特養等とターミナルケアの勉強会を行うなど、事業所として体制整備づくりがなされている。 | ○ | 利用者や家族から実際に終末期ケアの要請がでた場合のホームの方針、対応策をかかりつけ医と早期に話し合われ、取り決め等を全職員で共有するなどターミナルケアに向けたさらなる取り組みを期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 排泄時の誘導において、他の利用者に知られないようさりげなく声かけをしてプライバシーに配慮された支援がされている。利用者の個人情報の取り扱いに対しても十分注意がなされている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者の方の「1日に1回必ず外出をしたい」との思いをかなえるよう、職員と一緒に散歩をして満足を得てもらっている。利用者一人ひとりの思いを重視した暮らしの支援がなされている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 買い物、献立、調理、食事、後片付け等利用者と職員が一緒に行っている。地産地消(ホームの菜園)を重視した新鮮な食材を取り入れ馴染みの献立で本人、職員全員が同じ物を一緒に食べている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 本人の希望を重視した入浴体制となっている。就寝前に入浴する事で安眠へとつなげている。ホームでの入浴が困難な重度化している利用者には併設施設での特浴を利用され、一人ひとりに合わせた支援がされている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者の生活歴より「できること」への場面づくりがいくつも用意されており、毎日の生活が充実したものとなるよう支援している。(調理、洗濯干し、たたみ、趣味を活かした編み物、縫い物等) | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 利用者が戸外に出ることは日常茶飯事の事で、本人の身体状況を十分把握した上で本人の希望に沿って買い物、畑仕事、散歩、ドライブ等積極的な外出支援がなされている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 鍵をかけないケアの実践の取り組み方は、鍵をして安心するよりも鍵をしないことによる目配りを重視しており、安全に配慮しながら自由な暮らしができるよう支援されている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 併設施設と災害対策については具体的に避難訓練を実施しており、緊急連絡網も作成されており、日頃より職員は災害対策については配慮しながら知識も得ている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 職員の中に栄養士がおり、専門的立場で利用者の1日の水分摂取量に配慮している。特にチェックを必要とする人には記録として残している。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間兼食堂は日当たりが良く、風通しの良い居心地良い共用空間となっている。台所に設置されたカウンターは先の外部評価において指摘されたことによりリフォームされ、利用者の出入りがしやすく居心地良く過ごせるよう工夫がなされている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた物品類は家から持ってきており、本人の人生経験からその人らしい生活を重視した部屋作りがなされており、利用者の希望通りの和風(畳敷き)の作りの部屋も見られ居心地の良い部屋作りがなされている。 | | |